

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300017		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホームふれあい広陵		
所在地	奈良県 北葛城郡 広陵町 三吉 28-1		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成23年12月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「できることは時間がかかっても一人でしてもらい温かく見守る」と、個々の残存機能を生かした見守りに重点を置いた自立支援を目指したケアを行っている。また、日中一回は太陽の光を浴びることを目的に、一時間以内の散歩に水筒を持って出かけている。裏庭に小さな菜園を作り、利用者に指導を受けながら季節の野菜を栽培し、収穫した野菜は食材として活用している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年余りの事業所です。近隣との関わりを重視され、地域の協力関係構築に取り組みされており、少しずつ地域に馴染んできています。利用者の自立を優先され、「できることは時間がかかっても一人でしてもらい温かく見守る」と残存機能を活かし、自立支援を目指したケアを行っております。利用者の希望はその時々々の身体状況に応じて職員と相談しながら、工夫されたケアが行われています。重度化した場合や終末期についても利用者・家族の意向を重視した話し合いが持たれ、安心して利用できるよう努力されています。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里で共有している法人の理念を活用し、グループホームの理念を加え理念に沿ったケアを行っているか振り返りながら実践している	法人の理念にグループホームの理念を加え、職員同士で共有に努められ、日々のケアに実践されています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して一年余りで目に見えた地域とのつながりは明らかではないが、散歩中に地域の方から声をかけてもらえたり、挨拶をしたりと機会が増えているように思える	散歩を日課とされています。散歩中に近隣住民の挨拶や声かけなどがあり、地域との構築がみられます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や施設見学に来られた人に対して、抱えておられる不安等を聞きながらサービスの選択や関わり方をアドバイス機会を得ている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族の代表者との意見交換で新たに気付くことが多くあり、サービス向上に生かしている。病院や施設の介護・看護などの枠から抜け出した在宅の生活！を感じる機会を与えてもらっていると実感している	運営推進会議は、地区・区長、包括支援センター職員・家族と2ヶ月に1回、第3木曜日に開催されており、そこでの意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居受入は、介護保険課の職員と連携をとりながら勧めている。また、運営推進会議時や必要時電話・訪問等でグループホームの動きを知ってもらっている	行政担当職員が訪問されたり、又、行政窓口を訪問、運営上の相談や情報交換など、連携に取り組んでいます。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふれあいの里全体で取り組んでおり、「玄関に施錠は可」と県・町から指導は受けているが、夜間の施錠のみに留めた取り組みを行っている。行為のみではなく言葉による拘束もあり得ると認識し、入居者との会話にも敏感に反応できるよう努めている	玄関の鍵は施錠されておらず、身体拘束をしないケアを理解され実践に取り組んでいます。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ふれあいの里の基礎研習時虐待防止の研修を身体拘束防止と一緒に研修を受けている。職員の行動や精神状態を把握し、虐待に繋がらないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者に対して必要とされる対象者はないが、今後必要となってきたときは支援しようと考えている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時の説明だけでは不十分と思われる点が後に表出することがあり、必要に応じて繰り返し説明を加え理解・納得が得られるよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等とは、面会時に日頃の報告を兼ねて話す時間を設け、管理者や職員に意見や要望を伝えやすい機会を作っている。	家族の訪問時、日頃の報告と共に不安に感じられることや意見、要望等の聴取がなされ、運営に反映される取り組みをされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例会議を常勤・非常勤それぞれに開催し意見が出しやすい体勢を作っている。必要時代表者に気軽に申し出ることができ、申し出に対し柔軟な対応が得られる状態にある	毎月の定例会議で運営に係わる事項について、意見交換がなされ、出された意見を運営に反映される取り組みをされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ふれあいの里全体で職能給制度を取り入れている。個別面接を通して就業環境の整備を行っている。また、日常業務中での努力に対し、報奨金制度も取り入れられ職員個々がやる気を起こせる環境にある		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいの里全体で、キャリアパス別研修を企画し、ほぼ全職員が、必要な研修を受けられる体制が整っている。外部研修に対しても職員の希望に応じて参加を奨励している。施設内では、トレーニングなしでは業務習得はあり得ず、段階に応じた指導を個別に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に同業者はなく、周辺の市町との交流の機会はまだない。ふれあいの里内の交流は定期的に行いネットワークは確立している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居検討中の面接時、本人が一番落ちついている場所に出向き、ゆっくり時間を掛けて話を聞くようにしている。最初会った知っている人！と言う印象を持ってもらえて入居後に役立っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時情報収集と説明に約一時間を要していることが多々あるが、ゆっくり話しをすることで、家族の思いを知るだけでなく施設側の姿勢や面接者をも理解してもらえているように思う		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接時の家族からの情報で、何を必要とされているのか？何ができるかを考え入居を受け入れるように努めている。情報収集と説明に約一時間を要していることが多々ある		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から職員が教えてもらうことが多々あり、一方的に介護しているのではないことを痛感している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「預けてしまう」のではなく住む家が変わるだけで、家族と職員が一緒にお世話をすることを最初に伝え理解を得ている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族と一緒に外出に制限はないことを伝え、入居前の習慣等が制限されず継続できるよう支援している	友人・家族と一緒に外出機会等、関係の維持・継続への取り組みがなされています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット毎の関係が形成されていることに気付かされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了件数は1件。必要となった時は、相談や支援をしようと考えている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団の中の一人ではなく、個々の思いに沿った関わりができるよう努めている。行動を強制することなく、自然な状態で一日一日を過ごしている。色々な都合より何が幸せか！を考えるよう努めている	一人ひとりの暮らしの中で行動や表情から個々の思いを把握されています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時、本人・家族から情報を得よう努めている。入居後も日常の会話から情報の補いを行って、より多くの情報が得られるよう努力している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面接時、本人・家族から情報を得よう努めている。入居後も日常の会話から情報の補いを行って、より多くの情報が得られるよう努力している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画を作成し、家族に提示・職員で共有し、3ヵ月毎の見直し・更新を行っている	個別の介護計画を作成、定期的に見直しをなされ、家族・関係者と協議、共有され現状に即した取り組みをされています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った介護の実践・記録を個別で行い必要時評価を行い計画の見直しに活用している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じたニーズに対し柔軟な対応ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームでは、個々での地域資源活用よりは、全体としての活用が主となると考える。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医への定期受診の送迎、付き添い援助及び必要に応じた臨時の受診の支援を行っている。	かかりつけ医は、契約時に家族と相談され、本人の希望を優先した医療の支援がなされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で、介護職と連携を取りながら入居者の日々の体調管理を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師と面会・電話等で情報交換や希望を伝え入院期間を最短で帰館できるよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時細かく話し合い方針を立てよう努めている	契約時、終末期対応の相談がなされ方針を立てられている。なお、状態に変化がみられる時は、その都度関係者がケアの方針について相談されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ふれあいの里全体のキャリアパス研修プログラムで段階を追った「緊急時の対応」の研修を受けている。施設でも、時に応じて説明を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を通して避難誘導方法を検討及び訓練を行っている。また、地域住民の代表者と連携を図り協力が得られる体制は整っている	定期的に火災訓練を通して消化・避難訓練が実施されています。又、地域住民と連携をとり、応援・協力体制の整備もなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、プライバシー保持に努めた関わり(言動共)ができていのか否か職員が互いに注意しあう体制を整えている	一人ひとりの性格を把握、尊厳をもった言葉かけなど適切な対応をされており、又、排泄誘導時のプライバシーにも配慮がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「 しましょう」ではなく「 しましょうか? 」と声をかけることで、介護側が半強制的に誘導するのではなく、本人がしようと思うか思わないかで選択できるかと考えた働き掛けができるよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶を飲みながらのなど日常の会話から、入居者の今の思いをくみ取り生活に生かせるよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類の整理は家族と職員で行っているが、服は個々が自由に取り出せる状況にあり、不適切な状態の時アドバイスするようにしている。ヘアスタイルも本人の意向に沿って理容師が、整えている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどできることを入居者にしてもらいながら、食事を作る楽しみを感じてもらおう機会を作っている。食後の食器洗浄後の食器拭きは、入居者がしてくれることが多い	能力に合わせた食事の準備、食器拭きなど協働され、楽しく食事が出来るよう工夫されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日十品目ができるだけ充足でき、肉類と魚類のバランスを考慮した献立作りに努めている。また、水分摂取の機会を細かく設定し水分の確保にも努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・口腔ケアの誘導を行い、自立・確認・介助に合わせた関わりを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄する関わりを行っている。失禁していてもトイレに座るなど、夜間は、睡眠時間の確保を優先した関わりを行っている。トイレで上手く排泄行為ができず衣類・便器・周囲を汚染しても、できるだけ介助せず一人でしてもらい後で片づけるようにしている。	トイレでの排泄支援や失敗したときの支援など、自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維を多く含む食材の活用、一日一回の散歩、身体を動かすアクティビティ、腹部マッサージ等を行っている。緩下剤の使用は最小限に留められるよう努力している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回、2日に1回午後に入浴時間を設定している。入浴の誘導は、個々の状況に合わせて気分良く入浴できるタイミングを図って行っている。洗浄も大切ですが、湯船につかってリラックスできる時間を大切にしたいと努めています	入浴日や入浴時間の設定はあるが、一人ひとりに合わせた支援が行われています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠だった人や自分から居室に行って休む人は禁止せず昼寝をしてもらっているが、時間を見計らってお茶や手洗いなど起きやすい状況をセッティングしリビングに誘導している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録と一緒に内服薬情報は個別ファイルに綴じ職員はいつでも確認できる状態にある。変更があったときや、特に注意が必要薬時は、申し送りに掛け注意を促している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他者の役に立っていると自覚できる機会、楽しいと感じる機会をその人が苦手とすることをさけて提供できるよう努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の散歩とは違った外出の機会を設定し、多人数・少人数それぞれで行動できるよう努めている。また、家族に働きかけ家族と出かける機会も作っている	日常の散歩や外出の機会を確保し、家族と協力しながら、出かけられるよう支援されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭を所持する支援はしていない。お金を使う機会を設定するときは、立替払い方式で処理している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を書いて事務所に持参されたときは、ポストへの投函は施設で行っている。家族からの電話の取り次ぎは行っているが、家族にこちらから入居者が電話を掛ける支援は行っていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く環境面にも問題はないと思っている。トイレの不快なおいを感じることもない。行事時のスナップ写真や入居者が作成した貼り絵等を掲示板に貼っている	空間は広く、清潔で自然光もうまく取り入れられ、利用者作成の装飾も適度に掲示がなされおだやかに暮らせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が個々に食堂部分と居間部分を上手く活用し過ごしている。一人本を見ている人、テレビを見ている人、気のあった人同士話しをしている人たちを色々に過ごしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド持参で入居してもらっている。ベッド以外にもテーブルや椅子などを配置され、個々にその人らしい居室になっていると思う	使いなれた家具や好みの品が持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を最大限に生かして生活し続けてもらえるよう“待つケア”に努めている		